

令和2年度第1回小牧市食育推進会議（書面開催） 記録

- 1 開催期間 令和3年2月15日(月)～令和3年3月5日(金)
- 2 開催方法 書面にて各委員から意見聴取
- 3 委員 長島万弓、中東真紀、三輪雅一、竹内友康、青山勉、永井利幸(浅野委員代理)、千田道子、大野千恵、秋重召、伊藤貴子、倉知日出美、堀尾由香里、中村豊子、藤本佳代

4 議題

(1) 令和2年度小牧市食育推進活動報告について

※委員からの意見

【長島委員】

・活動報告から今年度のコロナ禍での食育活動の難しさが垣間見えましました。私自身、例年行っている大学での食育関連の行事がことごとく中止になったこともあり、対人での食育活動は皆無となりました。そのような中でも、報告の中には工夫して活動を実施されたところもあり、その方法、効果についての情報交換が必要ではないかと感じました。来年度は今年度よりは実施できる活動は多くなると考えられますが、より一層のコロナ感染対策が必要になることから、どのような工夫が実際に必要なのか、また参加者の満足度はどの程度なのかなど、活動記録を取っていただくとよいのではないのでしょうか。

【竹内委員】

・「小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例」が令和3年4月1日から施行されます。その条例文の中に、口腔機能発達不全症やオーラルフレイルの記述も含まれており、市民への認知が高まることを期待しています。小牧市歯科医師会もこの新しい概念に対する疾病に関しての最善の治療法などについても研修会等を開催し、研究に励んでいます。

【青山委員】

・コロナ禍での小中学校や幼稚園での野菜栽培、稲作、桃収穫、桃調理、サツマイモ収穫、大豆栽培、豆腐作り体験などの活動で、例年通りの活動が実施できない面があり、対応が難しく先生方と協力し対応しました。令和3年度の活動も同じ内容で実施を予定しているが、コロナ感染の事態収束によって活動の変更も考える必要があるかもしれません。

【千田委員】

・今後も学校教育で食育を推進していきます。

【大野委員】

・コロナの影響で例年のような活動ができなかったり、周知が不十分

で市民に活動が浸透できていないものもあるが、継続していくことが大切なので、工夫をしながら取り組んでいきたいです。

【伊藤委員】

・今年度は、コロナの影響で活動制限・人数制限が余儀なくされました。その反面、外出自粛期間が長かった影響で、家庭で料理する機会や新たに料理を始める人が増えています。新しい生活様式に対応しながら、Webを通じたレシピの提供など情報発信を続けていきたいと思っています。

【堀尾委員】

・生活改善実行グループ連絡研究会は、コロナ禍の中で全く何もできませんでした。その中で、いろいろやったグループの人は素晴らしいです。創意工夫をし、できることをやれたらいいと思いました。

【中村委員】

・私は一般市民で、特に団体に所属し活動しているわけではないので、大した活動ができないことを心苦しく思いますが、それぞれの方の活動内容、課題、今後の取組みの意思を拝読して、対象年代も目標も多岐にわたり今後の食育推進の目指す事項が明確に記載されていました。どの項目も大切なことであり、問題点に目を留めて解決できるものから進めていただきたいと思います。食育推進活動は机上ではできなく、農家の人、生徒さん、一般市民との連携も必要であり、参加も必要となってきます。私の知るところの一般市民の中では、関心も薄く、活動も何をやっているのか知らない人が多くいます。活動の周知を徹底し、活動の輪を広げ深めていくことを希望したいです。

(2) 令和3年度以降の小牧市食育推進計画について

承認14名 承認しない0名

※委員からの意見

【長島委員】

・ご提案の3点についてすべて承認なのですが、特に、健康日本21こまき計画と小牧市食育推進会議で同じようなことが行われていることにこれまでも疑問がありましたので、統合した健康づくり推進計画の策定や、会議そのものの統合は非常によい案だと思います。

【青山委員】

・JAとしても協力して対応します。

【大野委員】

・健康維持に食事は重要な部分を占めているので、統一することで分かりやすくなり、健康増進に繋がるのでよいと思います。

【中村委員】

・健康づくりと食育は深い関係にあり、目指すところは基本的に同一のものであり、統一することで市民にも分かりやすく理解しやすいので、ぜひそうしてほしいと思います。

【藤本委員】

・食育と健康と両面で市民の意識を高められたら、素晴らしいと思います。